

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立盲学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○三重県の視覚障がい教育の中核的役割を果たすとともに、児童生徒一人ひとりが尊重され、夢や目標に向けチャレンジできる学校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○夢や目標(日常の課題から、スポーツや文化的な活動、国家試験合格や優れた施術者になること等)を自ら定め、挑戦しようとする力 ○自他の命を大切にするとともに、仲間とともに積極的に活動し、互いを尊重し理解し合う関係を築くことができる力
	ありたい教職員の姿	○視覚障がい教育に関する専門性の維持・向上に積極的に取り組み、関係機関と連携をしながら視覚障がい児・者の学習支援やセンター的機能の充実をはかろうとする ○幼児児童生徒一人ひとりの状況に応じた誠実な支援を行い、幼児児童生徒及び保護者からの信頼に応え、人権を重んじた真摯な態度で教育を行う

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	児童生徒・保護者 ・児童生徒自身の持つ力を十分に発揮したい。 ・同世代の児童生徒同士の関わりを深めたい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	視覚障がい児・者に対する専門的な教育的支援の提供	県内の視覚障がいのある幼児児童生徒を本校につなぎ、ともに支援すること
(3)前年度の学校関係者評価など	・本校の教育活動の啓発のための方法の工夫(HP、SNS等の活用) ・危機管理、防災のための備えの具体的な強化(訓練のあり方の工夫など)	
(4)現状と課題	教育活動	・少人数で一人ひとりの状況に応じて細やかな学習計画を設定し指導できる反面、同世代の学習集団での教育活動を保障するための工夫や努力が常に必要である。 ・県で唯一の視覚障がい特別支援学校として校外で適切な指導支援を行えるよう、本校の歴史の中で蓄えられた視覚障がい教育の専門性を、維持・向上していく必要がある。 ・児童生徒の実態の多様化に対応できるような進路指導のあり方としていく必要がある。 ・視覚障がいのある乳幼児や小・中学校等で学ぶ児童生徒に対する支援について、教育相談活動の一環として取り組んでいるが、さらに確実な支援体制としていく必要がある。
	学校運営等	・本校の教育的支援を必要とする視覚障がい児・者等に本校の相談支援活動について確実に周知できるよう、積極的に外部に発信し、啓発していく必要がある。 ・近隣地域等との連携のあり方について、校舎移転を踏まえつつ、関係校と連携しながら推進していく必要がある。 ・視覚障がい者の特性に配慮した巨大地震や津波などに対する防災・減災の取り組みを一層進めていく必要がある。 ・時間外労働が一部の教員に偏っていることから、業務分担の平準化を図るとともに、全体的な総勤務時間の縮減を図る必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体的な学習を指導できるよう継続的に授業改善に取り組む。 ・児童生徒が、校外で同世代の仲間とともに活動できるよう、多様な集団の保障に努める。 ・教職員の視覚障がい教育に対する専門性の維持、向上をはかるため、校内と対外的な研修の往還により3年間をめどに視覚障がい教育の専門性を身につけられるような研修体制を工夫する。 ・将来の社会参画と自立に向けて、幼・小・中・高・専と継続したグランドデザインを構築しキャリア教育の実践を積み重ねる。理療科においては、確実な国家試験合格を目指す。 ・視覚障がいのある乳幼児や小・中学校で学ぶ児童生徒へのより確実な教育支援体制を整備する(幼稚部・通級による指導)。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の全ての視覚障がい児・者に、本校の教育支援活動を知ることができるよう、情報発信や、関係機関と連携した啓発活動を一層工夫し強化していく。 ・県内全域に対するセンター的機能の充実をはかるとともに、学校所在地域との連携を強めていく。 ・児童生徒の生命の安全を第一に考え、より幅広い視点から危機管理体制の見直しをすすめる。 ・校舎の移転に向けて、関係各署と連携協力のもと、準備をすすめていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習・生活指導の充実	(1) 個々の学習意欲と基礎学力の向上 (小・中学部) 【活動指標】月1回以上生徒の情報交換会をもち指導に取り組む。年間11回以上。 【成果指標】個別の指導計画内の学習意欲・基礎学力の向上について全員達成する。	【達成】 ・学部会や学部研修で月1回以上、日々の職員室での会話で児童・生徒の課題・指導についての情報交換を行った。 ・教員間で児童生徒それぞれの課題を共通認識し、連携して指導にあたることができ、児童生徒の成長につながった。 ・個別の指導計画に基づいた指導によりほぼ全員に学習意欲の向上が見られ、基礎学力の向上にもつながった。	※
	(2) 人とのつながり、社会性を身につける (小・中学部) 【活動指標】年3回以上、小中学部合同の学習や、校外学習を実施する。 【成果指標】個別の指導計画内の人とのつながり、社会性を身につけることを全員達成する。	【達成】 ・小・中学部合同の校外学習を1回、交流学習を2回、合同学習を3回実施し、学部を越えた仲間づくりに取り組むことができた。 ・学部単位では、小学部が2回、中学部が校外学習1回と宿泊学習1回を実施した。 ・その他にオンライン交流、居住地校交流、学校間交流を行い、人とのつながりの機会を持つことができた。	※
	(3) 学習に自主的に取り組める姿勢を身につける (普通科) 【活動指標】学部会で月1回生徒の学習状況の情報交換を行う。 【成果指標】各生徒の個別の指導計画の、各教科における年間目標1項目以上達成する。	【達成】 ・各生徒に関する情報交換を密に行い、教員間で連携して取り組んだことで、個別の指導計画の各教科における年間目標1項目以上の達成につながった。	※
	(4) 思考力・判断力・コミュニケーション力・情報活用能力の向上 (普通科) 【活動指標】毎週1回以上、自立活動の担当者間で取り組み内容の検討と成果を共有する。年に3回程度、学部全体での進捗と指導の流れについて情報共有する。 【成果指標】生徒自身が将来の進路に役たつスキルに関する目標設定ができる。	【達成】 ・生徒一人ひとりの自立活動に関する話し合いを週に1回以上行い、必要に応じて学部全体でも共有したことで、それぞれの生徒に応じた将来の進路に対する目標を持つことができたようになった。	※

<p>(5) 進路に有効となる資格取得への支援と人権を尊重する施術者の育成 (理療科)</p> <p>【活動指標】 各種模擬試験等を実施し、進路希望に合わせた個別授業を行う。臨床実習や高齢者施設での校外実習を通して職業人として必要な資質・能力を高め、社会における役割について深く考える学習活動を行う。</p> <p>【成果指標】 受験者全員の国家試験合格を目指す。就労への具体的なイメージ、施術者としての高い倫理感を育成する。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験以外に生徒自身が学習定着度を確認することができた。教員間では情報共有を徹底し、進路希望に合わせた個別授業を行い学習の定着につながった。 ・各種実習を行い、事前学習から振り返りを丁寧に行い技術と施術者倫理を高めることができた。 	※
<p>(6) 舎生一人一人の自立に向けた支援を行う (寄宿舎)</p> <p>【活動指標】 ・保護者、学級担任と連携を密にする。舎監との情報共有の時間を1日2回、聾学校との合同の引継ぎを1日1回行う。月1回の研修会で目標に対する進捗状況の共有と指導内容の確認及び振り返りを行う。</p> <p>【成果指標】 保護者、学級担任と学期毎に懇談を実施し、情報共有する。職員間及び舎監や聾学校との毎日の引継ぎを確実に実行し、情報共有を図る。全職員で統一した指導・支援を行う。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、学級担任と定期的に情報交換を行うことができた。舎監や聾学校についても同様に情報交換を確実に実行し、連携を図ることに努めた。舎監については、舎の情報よりわかりやすく示すため、舎監ファイルを作成した。 ・保護者、学級担任との懇談を踏まえた個別の指導計画に基づき、舎研修会で、舎生一人一人の目標や様子を話し合い、全職員で統一した指導・支援を行うように努めた。 	※
<p>(7) お互いを大切にできる力・生活の質を高められるような力の向上を図る (寄宿舎)</p> <p>【活動指標】 舎生主体の舎生会活動に取り組み、聾学校と合同で行事を年間2回行う。月初めに生活目標を伝え、意識づける。</p> <p>【成果指標】 行事等の感想・反省を聞き、楽しかったという割合80%以上を達成する。月末に生活目標の感想・反省を聞き、80%以上を達成する。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎会を聾学校と合同で実施した。また、送別会については、送別会実行委員会を立ち上げ、各校から数名選出し、計画した。 ・行事等の感想、反省については、楽しかったという意見100%、役員が中心となって計画、実施した。 ・月の中頃に生活目標の確認を行うことで舎生がより明確に目標を意識するようになった。 	※
<p>(8) 早期支援・早期教育の充実と、各種機関と連携した教育相談の充実 (支援部)</p> <p>【活動指標】 早期支援・早期教育「ひだまり教室」「ぱんだ教室」「親子のつどい」「ひだまり会」「でアイふれアイ相談会」の実施。教育相談 個々のニーズを把握し、それに応じた必要な回数を実施する。</p> <p>【成果指標】 年度末にアンケートを行い、「満足」の項目について、早期支援・早期教育 については保護者、教育相談について各種機関の満足度80%以上を達成する。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子のつどい・ひだまり保護者満足度 (満足80% やや満足20%) センター的機能満足度 (満足92% やや満足8%) 通級的な指導 満足度100%達成 ・保護者同士の情報交換の場や研修会の設定、巡回型の個別相談に対応することができなくなったところがあったので、今後の課題としたい。 	◎

	<p>(9)校務支援システムの円滑な活用を進める(教務部) 【活動指標】個別の指導計画、出席簿、通知表、指導要録について、入力の呼びかけや入力説明、サポート等を行う。 【成果指標】期限までに100%入力を完了する。</p>	<p>【おおむね達成】 ・校務支援システムについて教員の理解も深まっている。 ・入力の説明の仕方も改善し、提出期限ごとに呼びかけし、入力を促した。</p>	※
	<p>(10)読書活動および図書館利用の推進(総務部) 【活動指標】読書活動推進のためのイベントを1回以上行う。 【成果指標】児童生徒が1回以上、図書館の本を貸出利用する。</p>	<p>【達成】 ・給食とコラボしたイベントを実施。 ・1回以上、貸出利用をした生徒の割合は、23人中18人。</p>	※
安全・安心な学校生活	<p>(1)安心・安全な生活への支援を行う(寄宿舎) 【活動指標】年間3回(火災、地震、地震+火災)、年間1回(不審者)を想定した盲聾合同避難訓練を行う。 【成果指標】舎生が避難ルート、身の守り方を、職員は避難時の行動を確実に理解して実施する。</p>	<p>【達成】 ・盲聾合同避難訓練を年間3回実施し、避難ルートと身の守り方を学んだ。 ・職員は避難時の行動を理解して円滑に対応することができた。 ・ひきつづき迅速に避難するため、盲聾2校の協力体制について課題の検討していく。</p>	※
	<p>(2)人権教育を重んじた実践をサポートする。(教務部) 【活動指標】いじめ防止や命を大切にす視点を含めた道徳教育の全体計画の実施状況や各教科の指導内容を定期的に把握する。 【成果指標】各学部教務担当者および道徳教育担当者が各学期の前後に実施状況を確認し、充実を目指す。</p>	<p>【おおむね達成】 ・年度当初に確認された道徳教育全体計画をもとに、各教科等において取組をすすめた。</p>	
	<p>(3)自他の命を大切にし、いじめを許さない学校づくりを推進する(全、生活保健部) 【活動指標】児童・生徒の状況について、各職員が情報共有を密に行い未然防止に努める。 【成果指標】いじめの発生及び再発を0にする。</p>	<p>【達成】 児童生徒間の人間関係上の課題、学校生活等の問題等について、迅速に職員間の情報共有と対応に努めた。</p>	※
	<p>(4)学校給食の場面や事故等の防止について校内体制を強化する(生活保健部) 【活動指標】食物アレルギーの除去または代替食の提供、食形態の変更への対応、疾病に起因する食事制限等の対応、および異物混入を未然に防ぐ。また、非常事態時の対応マニュアルを見直し、共有する。 【成果指標】複数人で対応し安全安心な給食の提供を100%行う。対応マニュアルの共有率100%を達成する。</p>	<p>【達成】 ・調理員と共に複数での対策を行い、安全安心な学校給食の提供をすることができた。 ・年度初めに全職員へ非常事態時対応マニュアルの共有を行った。</p>	

	<p>(5) 防災・減災への意識を高め、自らを守れるような危機管理意識の向上を図る(生活保健部)</p> <p>【活動指標】通常の避難訓練に加え、抜き打ち避難訓練や消火器体験の内容を組み合わせ、年2回実施する。職員対象の防災研修を実施する。学校備蓄の充実と備蓄食を使用した防災給食の実施する。</p> <p>【成果指標】アンケート結果等による防災・減災への意識の向上率90%を目指す。防災給食1回以上、個人備蓄食品の試食1回、アンケートも踏まえた改善項目1つ以上を達成する。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年回2回の避難訓練を実施。合わせて、消防署職員による初期消火訓練、負傷者の救出訓練を実施。 ・災害時等での児童生徒の避難誘導について研修会を開催。合わせて、常時利用できる災害時を想定した歩行体験の部屋を設置。 ・賞味期限の近づいた学校備蓄の非常食を10月に給食で提供し、個人備蓄食品の試食を12月に実施した。 	◎
--	---	---	---

障がいの理解と啓発	<p>(1) 視覚障がい児・者の理解に向けた啓発・支援活動の推進(支援部)</p> <p>【活動指標】県内全市町の福祉行政機関及び関係諸機関を訪問し、視覚障がい理解のための説明を行う。職域・職場開拓のため、卒業生の支援については、時期を設けず必要時迅速な対応を行う。</p> <p>【成果指標】県内29市町の関係機関への訪問を年2回実施する。また、卒業生支援については、該当卒業生や進路先で実施するアンケートにおいて、対応についての満足度80%以上を目指し、訪問先より得られる情報、年1つ以上を目指す。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の福祉行政関係機関等を年2回訪問し、視覚障害理解を深めるため、さまざまな連携を行った。啓発活動では、マッサージだけでなく、点字や白杖体験、視覚支援機器の体験等を通じて、地域の方とコミュニケーションをとりながら啓発できた。 ・卒業生支援では進路先への訪問や卒業生との面談を通して、現状の課題解決に向けて支援できた。卒業生の支援から実習先開拓へつながり、またキャリア教育サポーターと連携し、実習先の幅を広げていけた。 	◎
	<p>(2) 視覚障がいに関する図書や情報を収集し、教職員の専門性向上に役立てる(総務部)</p> <p>【活動指標】視覚障がい関連図書について、図書館から教職員へ情報を提供する。</p> <p>【成果指標】図書だより等での情報発信を年に10回以上行う。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供のメールを5回発信。 ・図書だよりを5回発行。 	※
	<p>(3) 盲学校の日常の教育活動の様子を校外に知らせ、障がいの理解に努める(管)</p> <p>【活動指標】日常の様子をホームページ等で発信に努め、行事等についてはマスコミに告知する。</p> <p>【成果指標】月2回以上ホームページを更新する。各種配布物に本校ホームページへのリンクをつけてアクセス数を増やし、新聞等への掲載回数は学期に1回以上を目指す。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブログ等で活動の様子を月2回以上、新聞等への掲載回数についても学期1回以上を達成することができた。 	

改善課題

・今後も児童生徒数の減少傾向が見込まれる中で、引き続き学習集団保障のため、交流及び共同学習、盲学校間のオンライン交流等の取組を推進するとともに、系統立てた学習につながるような工夫が必要である。

・保護者や関係機関等と連携しながら、多様な発達段階、多様な実態の児童生徒に応じた対応や支援を今後も継続していく必要がある。

・在籍のいかなを問わず、県内の視覚障がいのある乳幼児から成人まで、本校の教育的支援を確実に提供できるような体制を構築していく必要がある。

・本校の教育相談や就学に関するニーズのある人に、本校の情報が確実に届くよう、ホームページ等の発信の仕方をさらに工夫するとともに、学校公開等のあり方についても工夫が必要である。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
職場環境の向上	(1)総勤務時間を縮減する(管) 学校閉校日を夏季休業中に2日、冬期休業中に1日設定するとともに、月1～2回の定時退校日、ノー会議デーを設定する。 【成果指標】以下の達成を目指す。 ・一人あたりの月平均時間外労働は15時間以下。 ・1ヶ月の時間外労働時間45時間を超え延べ人数0。 ・1年間の時間外労働総時間360時間を超え人数0。 ・年休取得1人年間8日以上。 ・夏季休暇完全取得100%。 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合90%以上。	【おおむね達成】 ・一人あたり月平均時間外労働15時間以下：57人中55人達成 ・1ヶ月の時間外労働時間45時間を超え延べ人数：2人 ・1年間の時間外労働総時間360時間を超え人数：0人 ・年休取得1人年間8日以上：15.2日 ・夏季休暇完全取得：100% ・設定した日の定時に退校できた職員の割合90%以上：93.7%	※
	(2)会議資料の事前準備の方法や提案時間の設定等の工夫による時間効率化を目指す(総務) 日常的に職員間の情報共有を促進するとともに円滑な学校運営と総勤務時間の削減につながるよう努める(総務部) 【活動指標】会議の事前準備や会議記録の現状を改善する手立てを継続し、会議が定時終了できるようにする。 【成果指標】勤務時間内の会議終了を90%以上とする。	【達成】 ・職員会議を試行的に前年度より1回少なくした(行事の多い11月)。また、会議を効率的にすすめるよう具体的な提案方法等について共通認識を図り時間短縮を図った。勤務時間内の会議終了：93.2%	※
	(3)校内での情報共有を定期的に行い、スムーズな業務ができる環境づくりに努める(管) 【活動指標】月2回の主事会や年1回以上のオフサイトミーティングの実施により、風通しの良い職場づくりに努める。 【成果指標】学期ごとに主事会やオフサイトミーティングでの意見や改善案により具体的な業務の削減や改善につなげる。	【おおむね達成】 ・月2回の主事会および年1回以上のオフサイトミーティングを実施するとともに、改善提案BOXを設け気づきや改善案を実行した。	◎
職員の資質向上	(1)支援機器やICT機器等の使用方法をサポートする。(総務部情報) 【活動指標】個別や少人数のICT機器の指導・サポート、全体へのマニュアル配布を行う。 【成果指標】年間5件以上。	【達成】 ・グループ研修1件。全職員に向け、ICT機器操作に関するマニュアルを配布10件。個別の質疑応答トラブル対応120件。	
	(2)教員の専門性を向上し、授業力を高めるための研修を行う(研修部) 【活動指標】全校で校内授業公開週間、その前後に学部研修を設け、授業研究を推進する。「三重県立盲学校専門性チェックリスト」を活用して、教員の自己研鑽を促進するとともに、教員のニーズを捉えた研修を行う。 【成果指標】「授業力が向上した」のアンケート回答が80%以上、研修の満足度80%以上を達成する。	【達成】 ・「授業力が向上した」のアンケート回答及び研修の満足度が80%以上を達成した。	◎

改善課題

- ・教員がより子どもとしっかり向き合い、授業やその準備等に十分な時間を割くことができるよう、学校運営上の業務や会議等について精選するとともに、より機能的な組織体制としていく必要がある。
- ・県で唯一の視覚障がい教育を担う特別支援学校として、引き続き専門性の維持継承のため努力をしていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・満足度調査の質問項目について「困ったことはありますか」と問いかけた方が答えやすく、具体的な課題が見えるようになるのではないか。・将来的に規模縮小が見込まれる今後において注力すべき所は、県内唯一のセンター的機能を充実させていくことである。さらに情報発信は特に重要であり、児童生徒の学びの場面やフロアーバレーなどの活動から成長した姿を発信したり、研修機能を充実させたりするなど、来校し体験してもらう機会の充実を図ってほしい。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・一人ひとりの実態や見え方に応じた学びで育む力と、交流及び共同学習やオンライン交流・合同授業における学びで育む力を組み合わせた教育活動を推進する。・多様な発達段階や実態の児童生徒への対応や指導、支援について、学部や校内で共有しながらオンライン等による学習保障も含め、組織的に進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・今年度作成した理療科紹介動画を SNS 等も活用しながらニーズのある人に確実に見てもらえるようにする。・学校公開やサマースクールを、より明確な目的のある行事と位置づけ、立案、実施する。・授業やその準備など子どもに向かう時間をより確保できるよう、会議回数等の縮減や、授業の持ち時間の調整等に取り組む。